自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171000359		
法人名	有限会社 敬愛サービス		
事業所名	グループホーム ななかまど大麻		
所在地	江別市大麻元町192の28		
自己評価作成日	平成23年11月1日	評価結果市町村受理日	平成24年3月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所の「あくまでも人間らしく」の理念のもと、地域の中で入居者一人一人が1日1日を大切に生活し、マイクロバスで出かける機会を多く持ち地域社会とのつながりを持ち、充実した日常生活を営めるよう職員でケアさせていただいております。また、家事や畑仕事は入居者の皆様と一緒に役割を持っていただき張りのある生活をしていただいております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171000359&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成24年2月27日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、利用者が施設でも地域の中でも「人間らしく生活する」を理念に掲げ、理念の実現を目指し、年間を通じて常時外出する機会をつくり、地域社会の一員としての生活の継続に努めている。共用フロアでは職員が利用者に寄り添い談笑し、家庭的な雰囲気の中で高齢の利用者も生き生きと過ごして、外出や人との触れ合いが心身の活性化につながっている。利用者要望相談記録簿を作成して、会話の中から要望を汲み取り職員で共有し早急に対応している。視力低下の人がなるべく自力で生活できるよう手すりなどに蛍光テープで目印をつける工夫など利用者主体の支援をしている。災害訓練では21時に夜間訓練を行い、AED、屋外には非常用サイレンを設置、非常用発電機を準備するなど災害対策に取り組んでいる。ボランティアも受け入れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「あくまでも人間らしく」を理念とし、理念を日誌の見やすいところに記入していつでも確認ができ、会議の冒頭で暗唱し入居者一人一人が人間らしく生活できるように努めている	基本理念は施設長が福祉、医療の実務経験を踏まえて作成したが、職員は理念をよく理解して日々の実践に活かしている。理念は日誌に貼り付け、見やすい場所にも掲示している。会議でも暗唱し、常に理念の再確認をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入し、町内で行われるバーベキューや温泉旅行に参加したり、ホームの行事に参加して頂いたり、関わりをもっている。利用者、ゴミ捨てなどに行った際近隣の方と挨拶し積極的に声を掛けている。	地域の中で充実して過ごせるよう、地域の行事に積極的に参加している。事業所開催の夏まつりには地域の人が参加したり、傾聴や歌のボランティアが事業所を訪問するなど、地域の人と交流する機会は多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	各グループホームとの交流、民生委員、ボランティアの方々に、気軽に見学していただけることを声掛けし、また、民生委員の会合で認知症やグループホームについて講師を務め地域貢献できるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、家族と地域の人々が顔を合わせる中で、地域の方や家族の方の意見や改善点を生かせるように話し合っている。	定期的開催している運営推進会議には、町内会長や利用者も出席している。会議では、運営状況の説明、報告、家族からの要望、災害に関する事柄などを意見交換している。テーマを決めて討議することもある。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書類など提出する際は、市町村へ出向き話し合いを持ち協力関係を築いている。	市の担当者とは話し合う機会を設け、担当者交替時も連携を深めるように努めている。保護課担当者の来訪時には、情報交換を密にしてサービスの質の向上に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は常に開錠しており、身体拘束廃止委員会を定期的に実施し、各職員に伝達。「身体拘束はしない」というのが、全職員の共通した考えであり、実施している。	身体拘束廃止委員会を発足して拘束の具体的な項目について内部研修している。職員は拘束の弊害についてよく理解し、抑圧感のないケアに取り組んでいる。虐待に関する新聞報道記事から虐待についての再確認をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	会議の中で虐待につながる行為を説明し、勉強会の中で話し合いをして虐待の無い施設づくりを目指している。また、ニュースなどで虐待が取り上げられている時など話し合い未然に防いでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議の中で成年後見制度について説明したり必要性を話し合ったり、今年江別市内のグループホーム有志で成年後見の口座を開催した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書の説明をする場合は、専門用語をなるべく使用せず、十分な説明をして納得ができるように傾聴し対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方が訪問した際は、改善点を聞き、運営推進会議内でも意見が出た際は速やかに対応するよう努めている。利用者に関してはモニタリングをして要望書の記入により要望が確実に実現できるように努めている。	家族来訪時は積極的に関わり意見、要望を聞き対応している。ケアプラン表に意見要望欄を設けて送付したり、運営推進会議で意見、要望を出してもらうなど、思いを引き出す機会をつくり、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長、ホーム長、管理者が会議や毎日の業務報告の中で職員の意見を聞き働きやすい職場づくりをしている。	施設長は利用者の外出時に同行支援をしており、職員とコミュニケーションを図る機会が多い。月1回の職員会議で意見交換を行い、気軽に話し合いができる関係を築いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホーム内の勉強会、外部での研修を受け職員の段階に応じてトレーニングし、向上心が持てるよう整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内の勉強会、外部での研修を受け職員の経験に応じてトレーニングしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームの集いの企画に参加し、交流を深め情報交換をしている。江別市内の管理者、代表者の会を開催して情報交換をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者、職員が本人と直接話し、困っている事など不安にならないように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望や今後について話し合いをし、家族が面会に来園された際は気軽に話ができるよう関係づくりをして要望が出しやすくなるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談には迅速に対応し、本人家族とも話し合いの場を持つように配慮をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と職員とのコミュニケーションを図るようにし、共存共生を目標にその人に合った支援に努めている。また、食器洗いなどの、汚れの落とし方、昔ながらの方法を教えて頂くなど、自然に支え合う関係が出来ている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム行事の参加などをしていただいたり、面会時間などは設けずに家族の方がいつでも来ることができるよう工夫している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	当ホームのマイクロバスを利用し、今までのなじみの場所に行ったり、季節ごとの手紙、また電話などで関係が途切れることがないように対応している。	馴染みの商店や飲食店と一緒に行く、電話や手紙のやり取りの際の支援など、馴染みの関係が継続できるように取り組んでいる。施設長が東京出張時に東京在住の親族と会えるよう同行して支援したこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士の関係を把握するように努め、共同空間の中で利用者同士が自由に過ごせる場を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談を受け入れる体制にあり。継続的な関わりを持っている。また、ホームのお祭りなどお知らせし気軽に尋ねられる様配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は入居者一人ひとりの今までの生活歴を十分に把握し、本人の思いに近づけるように努めている。	日々の関わりから触れ合う機会を多く持ち、一人ひとりの思いや意向を汲み取り把握している。把握した思いは、利用者要望相談記録簿に記載し、職員同士で共有して意向に即した支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	使い慣れた生活用品、家具などを利用し安心して過ごせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定、一月1~2回の体重測定、定期受診、急病などに速やかに対応できるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を用いて、個々の課題とニーズを出し合い、ケース会議で意見、アイデアを取り入れ作成している。	担当職員がアセスメントを行い会議で検討し、本人や家族の意向を尊重してプランに取り入れ、本人本位の介護計画を作成している。ケアプラン表は各自の居室に貼付している。日々のケアプラン実践も記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の個別記録をとっており、気づきや工夫がある場合は個別記録に記入。朝のミーティング、申し送り、職員ノートで情報交換を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者のご家族が来園された時や電話で連絡した時は、ご家族の希望を聞き、改善できることは改善するよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災訓練時には消防署、地域の消防団と立会いで避難訓練を行っている。不審者対策のため玄関には監視カメラを設けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月一の訪問診療の実施、かかりつけ病院を確保しており病院内には気軽に相談できる相談員がいて、日常の利用者の健康管理を支援している。	協力医療機関の医師が週1~2回往診し診察、電話で指示を仰ぐこともある。訪問看護ステーションとも連携を密にし、健康管理に努めている。ターミナルケアの実践経験もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と連絡を密にして、日常の利用者の健康管理を支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院に向け、入院先のドクター、家族と連絡を密にしている。職員は自主的にお見舞いに行き本人の身体状況の把握、退院後の支援についての情報交換を施設長、ホーム長、職員、家族との話の場を設けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体状況の異変、重度化した場合は医師、家族と共に話し合いをしている。またその方針を職員とケース記録、申し送り等で共有している。	重度化や終末期についての指針を利用時に説明して理解を得ている。重度化した場合には家族や医師と話し合い、医療的視点から支援の方針を検討している。終末期ケアの具体的なマニュアルを作成し、理解の共有に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の指定病院を定めている。又、対応の流れを記載した一覧表を各ユニット毎に貼っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員立会のもと、春・秋(昼・夜間)の年2回の防災訓練の実施。また、消火訓練も行っている。	災害訓練は昼夜訓練を実施しているが、夜間は21時に実施して夜間時の災害避難体験を実践している。外階段やシート利用避難方法など様々な訓練を試みている。屋外サイレンやAEDも設置し、非常時の発電器も準備している。	災害時を想定して様々な訓練を実践しているが、今後は地域住民が災害時に協力いただける具体的な支援方法を整え、住民と一緒に訓練を実施する取り組みが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の誇りやプライバシーを損ねないよう職員に気をつけている。個人情報厳守するよう職員会議で話し合っている。	「グループホーム入居者の権利」について書面に明記し、契約時に説明して事業所内に掲示してある。職員は内部研修会でプライバシーについて学び理解しており、日常の関わりの中で配慮した対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決めるのではなく、複数の事柄から選んでいただき、本人に確認してもらい了解を得ている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別化や生活暦、本人のニーズを踏まえた上で出来るだけ希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容の利用、家族と理美容へ行く。本人に合った洋服を購入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の身体状況に合わせた調理のお手伝いや、利用者全体で出来る調理の工夫等を行っている。	一人ひとりのできることを見極め、食事に関わる作業を一緒に行っている。誕生会、米寿、喜寿など個人の祝事の時にはレストランに行くなど、全員で祝い外食する機会が多い。個々の希望する食べ物を聞き、献立に取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の好みに合った食事提供をしている。水分量はケース記録に記入し、申し送りをを行い、情報を共有するよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が一人一人の利用者の口腔ケアを行い、口腔内の確認を行っている。異常の際は速やかに歯科受診を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入所後、排泄のパターンを知るため、表に記録したり職員同士での情報交換、声掛けや誘導も行ない自立排泄ができるよう努めている。	排泄チェック表から一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。失禁用下着を使用している利用者も、トイレでの自力排泄を目指し支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各利用者の排便をケース記録に記入し、排便のリズムを把握できるよう努めている。また、ファイバーや運動によって薬に頼らないように努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は特定せず、時には入居者の希望により寝る前に入浴をして、快適な生活が送れる様に入浴を行っている。	毎日入浴できる体制であるが、身体状況をみて週2～3回を目安にし入浴支援している。入浴剤や木酢液を使用してくつろいだ気分で入浴できるよう工夫している。2人介助で支援する場合もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人で居室で休みたい方もいらっしゃるが、日中はなるべく食堂で過ごせるように楽しみを持ち、家事や他利用者と談話して過ごしていただけるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日飲む薬を1日分前日の夕方に準備し、箱に飲んでいる薬の名前や写真を貼り、薬の情報をいつでも確認できるところに保管し病状変化の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の情報を元に得意な事、趣味等を探り、会議などで話し合い、本人のニーズに出来るだけ応えられるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に出かけたり、夜間のイルミネーション見学や雪まつり見学に出かけて楽しみながら生活できるように努めている。	初詣、ライラック祭り、いちご狩り、文化の日の展示品観賞、クリスマスコンサート、小・中学校の行事見学、外食など、日常的に外出できる機会を多く設け、活性化のある生活支援をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る方は買い物を見守っているが、出来ない方はホーム側でお小遣いを預かり、本人の希望の物を買えるように努めている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が家族と話したい時は施設の電話で話したり、携帯電話を持てる方で使用方法が十分に理解できない方には掛けられるように支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの置物、飾り物を変え、日差しの強い日にはレースのカーテンをしている。	利用者が集う居間には、お雛様の掛け軸や飾り物などがあり、職員と利用者は談笑し、温かい雰囲気となっている。また、蓄熱式ストーブの温度も適温で居心地よく過ごせる空間となっている。ベランダから見える庭も心が和む景色となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には畳みの小上がり、廊下には畳みの長椅子をおいてあり、そこを利用し談話している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具は、本人の使い慣れたものを使用している。	馴染みの家具や調度品、仏壇など自由に持ち込み、安心して過ごせる場所となっている。米寿、喜寿の時に職員がお祝いの言葉を書いた色紙を飾るなど、その人らしい和みのある居室となっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各利用者毎の力に応じ、個別に工夫し安心して生活できるよう努めている。			